

株式会社アペックエンジニアリング

建設業

空調・衛生・給排水・電気等の設備工事業（施工管理）を主業とする企業。東京、仙台、川口、名古屋、広島に営業所を構え、自社施工部門や環境配慮型設備工事の技術を有する。

補助事業名	さいたま市DX推進補助金	実施時期	令和4年度
申請テーマ	クラウドサーバーの導入		

情報共有課題の解決に向けたクラウドシステム導入

全国5都市に営業所を展開する同社では、構成のバランスに課題を抱え、技術やノウハウの継承面で将来に向けた取り組みが求められていた。また、事業拡大に伴い、情報管理と共有の仕組みも課題となっていた。

現場ごとに設置されたNAS（外付けハードディスク）による個別の情報管理体制により、データの検索性が限定的で、最新情報へのアクセスに時間を要するケースが少なくなかった。日常的な情報のやり取りに多くの時間を費やしており、特に大容量データの送受信には煩雑な手続きが必要だった。個人的な情報管理方法に依存する部分も多く、組織としての情報活用が十分とは言えない状況だった。

これらの課題解決に向け、同社ではクラウドサーバーを導入し、社内部門を横断してデータを工事現場単位で一元管理するシステムを構築した。



このシステムにより、現場事務所メンバーとの現場書類共有や、現場代理人と外部施工図業者・加工業者とのデータ共有がシームレスに行えるようになった。導入にあたっては複数年契約による費用最適化を実現し、技術部が主体となり、部門・用途ごとに説明会を開催して社内への浸透を図った。



データ共有の円滑化がもたらした業務効率向上と今後の展望

クラウドサーバー導入後、全社的な利用が定着し、情報共有体制が大きく改善した。モバイルデバイス（スマートフォン、タブレット）による使用が可能になり、外出先でのデータ確認が実現したことで、多くの社員が作業効率の向上を実感している。大容量データの共有も容易になり、以前は複雑だったデータ交換が、クラウドストレージを使用して外部とのデータ共有がスムーズに行えるようになった。

情報管理の安全面でも進展があり、クラウドサーバー使用によりシステムの常時監視が実現し、潜在的な問題は自動的に処理が停止され、管理者への報告システムが機能している。実際に懸念事例の早期発見につながったケースもあり、事前対応が可能となった。多くの現場でNASからクラウドサーバーへの切り替えが進み、会社全体での情報共有が実現した。

この取り組みの最大の成果は、情報管理の安全性向上と業務効率の大幅な改善だ。ハードウェア故障によるデータ損失リスクが解消され、機器メンテナンスコストも低減した。また、外部メディアへのデータ保存が不要になったことで、情報管理の一元化が進んだ。この企業は環境に配慮した輻射空調も手掛けており、地中熱を利用した空調設備を施工するミサワ環境技術の子会社に持つ。今回のDX推進により、ESGやSDGsに対応した営業展開の基盤も強化されている。

データの一元管理により業務効率化が進み、各部門でのデータ重複保存によるストレージ資源の最適化も実現した。クラウドサーバーを活用した情報共有の円滑化は、技術やノウハウの継承において新たな可能性を拓くものと期待されている。

Company Date

- 代表取締役：縣 俊明
- 所在地：埼玉県さいたま市大宮区
- 資本金：1億円
- 従業員数：182名
- 設立年月日：2008年11月
- URL：<https://www.apeceng.co.jp/>